

縄文時代の安定社会

Stability of Jomon Society

西田正規

はじめに

①安定性の源泉

②縄文社会のキーワード

おわりに

【論文要旨】

およそ1万年前の日本列島に定住生活が出現する。狩猟、採集、漁労、栽培などを行い、小規模な集落を形成したこの社会は、生業に関する基本的道具や技術、集落規模などをほとんど変化させることなく、大陸に起源した文明社会の影響を受けて崩壊するまで7000年以上にもわたって持続した。

にも関わらず、縄文時代に関する考古学的研究のほとんどは、縄文社会の時代的变化を見つけだし、その変化を解釈することに関心を集中してきた。言うまでもなくこの発想は、文明社会に関する歴史的視点に同じである。文明社会はおしなべて変化の激しい不安定な社会であるのに対し、文明以前の素朴な社会は変化の少ない安定社会であるのが普通である。両者の間には大きな質的違いがある。

そのような文明以前の素朴な社会を歴史的発想から分析してきた所に、これまでの縄文考古学の致命的欠陥がある。縄文社会の重要な特徴が高い安定性にあるなら、その安定性がいかに維持されたのかを問うことこそ、この社会を理解する最も重要な焦点でなくてはならない。だが、そのように問われたことはただの一度もなかった。

そこで本論において、この新たな発想からの理解を深める試みを行った。日本列島の自然的環境と縄文社会の生存戦略に関わる重要な要素群を選び、それらが互いに密接に関連しあって複雑な網目状の構造を作っていることを示し、その構造の中に高度な安定性を維持するメカニズムが埋め込まれていることを指摘する。